

## 東京研修感想文

私が東京研修に行こうと思ったきっかけは普段はなかなか体験できない企業への訪問や現役の東大生の方と直接話すことができ自分の進路選択に役立つと思ったからです。

私は航空関係の仕事に興味がある人のグループで班長になりました。軽い気持ちでなった班長でしたが、実際なってみるとものすごく大変でした。班の活動はまずどの企業を訪問するか決めるところから始まりまた。しかしなかなか班員とのコミュニケーションが取れず、なかなか決まりませんでした。他班は決まっていくのに自分の班はまだ決まっていなくて焦りと不安が募りました。特に大変だったのは企業のアポ取りでした。一度企業にお電話をかけさせていただいたのですが、とても緊張してしまいうまく話せませんでした。また、電話で訪問の申し込みはメールでお願いします、と想定外のことも起こり苦労しました。アポが取れた時はすごい達成感を感じられました。質問などは班員と協力して考えることができたのでよかったです。

一日目はまずディレクトフォースの皆さんのお話を聞きました。最初の近藤玄太さんは義手を作っている方で義手は障害を隠すものではなく、個性を表すものとして広めたい、とおっしゃっていました。いろんな人、いろんな考え、いろんな価値観を大事にしようと思いました。

その後、グループごとに三人の方とお話をしました。最初の太田さんは海外生活や取締役の経験をされている方でした。太田さんには高校や大学は自分の夢について考える場所であること、自分の進路を周りに流されて決めることはよくないということを教えていただきました。また仕事選びについては、「たのしいこと」を仕事にできている人は少ない、仕事の多くはつらいことである。「楽しいこと」よりも「人に評価される」「得意」「お金になる」ことを仕事にするほうが良いということを学びました。

次に外務省などで働かれた村上さんにお話を聞きました。村上さんは、高校は社会に出るまでの基礎能力を身につける場所だとおっしゃっていました。教養を高めるには、自分の好きな分野だけでなく、得意でない、今まで読んだことのない分野の本を読むことが大切だと教わりました。

最後は銀行員として世界中で働かれていた矢ヶ崎さんとおはなしでした。矢ヶ崎さんは昔のトランプ大統領にお金を融資した時の話や、世界各国での仕事の体験を面白く話してくださいました。また、海外では宗教・人種・性別についての話は避けたほうが良いということや、外国の人と話すときは90%は会話で10%は相手への尊敬で言いたいことは伝えられると知りました。

三人に共通していたことは、三人とも海外に留学経験があったことです。留学のメリットは価値観・考え方の違いを学べたり異文化の友達を作ることができる、という点だそうです。また留学の時には、いく前に日本の文化と留学する国の文化をあらかじめ勉強しておくこと、文化の違いを見つけることも大事だが、共通点を見つけることも大事だと行くことを学びました。

午後は企業訪問に行きました。私たちのグループは、三菱重工業さんに訪問させていただきました。中学までの時とは違い先生なしで生徒のみの行動は初めてでしたし、東京という慣れていない、人も多いところでの活動は緊張しました。オフィスにつくと担当の方が優しく対応してくださり徐々に緊張もほぐれていきました。まず M's スクエアというショールームを見せていただきました。私たちが航空機に興味があるということで三菱重工で開発中の MRJ について主に説明してくださいました。ショールームには三菱重工さんが作っているたくさんの製品の模型がありとても面白かったです。MRJ には機体の材質から内装座席の硬さにまでたくさんの工夫がされていました。実際にシートに座ってみるととても座りやすく技術の高さを感じました。また MRJ のヘッド部分はほかの航空機に比べ鋭くなっているのですが、それは日本刀をイメージしているそうです。機体に入っている赤・黒・金のラインは漆を表していたりと本当に細部までこだわっていることがわかりすごいなと思いました。

その後私たちの質問に答えてくださいました。私たちの質問は、実際に航空機の製造にかかわっている方々へのものでした。しかし製造工場は名古屋にあり普通ならば答えられませんと言われても仕方がない状況でした。それなのに三菱重工の広報の方は事前に質問を送ってくれば技術者の方に回答をもらっておくと言ってくくださったのです。

三菱重工の皆さんがモノを作るうえで大切にしていることは「常に良いものをより安くより早く作る」ことだそうです。消費者のニーズにこたえるために、様々な部署と連携したり課題解決に努めたりされていることを知りました。また海外の方と仕事をする機会も多く、言語や時差などで仕事が思うように進まない、と苦労もあると聞きました。それでも自分が携わった製品が社会の役に立ったりお客さんに感謝されたりしたときにやりがいを感じる、という話を聞き社会のために頑張る姿がとてもカッコいいと感じました。また、企業が求める人材はトレンドを自分なりに予想分析できる、アンテナを広く張り情報を活用し推察できる人だと聞きました。今後の生活でニュースや新聞を見て日ごろからたくさん情報を得ようと思います。

夜には二高の OB の方々との座談会がありました。OB の方は東大生の方が多く学生生活や受験の時の体験談などを聞かせていただきました。文系に進むにしても、数学の能力は必要であり、数学が苦手だからといって文系に進むべきではないと教わりました。一番印象に残っているのは「東大は受けなければ絶対入れない」という言葉です。これは、挑戦し

なければ可能性はなく、何事も挑戦することが大事、ということです。これはすべてのことに通ずることで、私も挑戦する気持ちを持ち続けたいと思います。

二日目は東京第大学見学会でした。初めに駒場キャンパスを見に行きました。キャンパス内の図書館を見せていただいたのですが、蔵書の多さと設備がすごかったです。ワークショップではまず自分のやりたいこととその理由、行きたい大学などを書きました。その後東大生の方によるプレゼンテーションがあり、二人の方がなぜ東大に来たのかなどについて話してくださいました。私は東大に行く人は早い時期から東大を目指し、将来の目標も決まっている人ばかりだとおもっていました。しかし、プレゼンを聞いてみると、進みたい進路のために東大に来た人もいれば、明確な目標や進路は決まっていなかったがなんとなく東大に来た、という人もいて驚きました。東大生のプレゼンを聞いた後にもう一度自分の進路を見つめなおしてみると、最初より具体性が増し、現実的になっていました。このワークショップで意識が少し変えられてよかったなと思います。

午後は赤門のある本郷キャンパスに見学に行きました。ここでは農学部の研究室を見学させていただきました。世界最高レベルの技術だったり施設をじかに見れてよかったです。その後東大生の方との個別相談会がありました。普段はなかなか聞くことのできない生活の様子や学校の仕組みについて聞くことができました。東大のいいところだな、と思ったのは進学振り分け制度です。これは一、二年の間はどの学部に行くか決まっておらず、三年生に上がるときに成績に応じていきたい学部を選択できる、というものです。進路が決まっていなくても大学に入ってから自分の進路をじっくり考えられるなはいいなと思いました。

今回の東京研修で今まであまりちゃんと考えたことのなかった自分の進路について深く考えることができたし、普段は聞くことのできない大人の方々や企業、東大生のお話が聞けて本当に良い経験となりました。今回の見学会で知ったこと、学んだことを自分の進路選択に生かしていきたいです。